



国境のない笑顔

日本交易
取締役 紺野 充宏



濃い緑の香りと、透き通った潮の香りが交差する島、グアム。約20年前から今現在に至るまで、私は時間と体の余裕を見つけては、この島に通いつめていた。

日本から最も近距離な楽園として知られるようになってから、島も街も年々都市化が進み、観光客の増加に比例してホテルもレストランも知らない間に増えている。そんな日々進化していく中で唯一変わらないのは、島の人々の笑顔だ。この温かい笑顔には、国境という二文字は決して存在しない。

子供の目

岡安証券(旧大塚証券)
監査部長 吉田 勝利



ある日食堂で隣のテーブルから母親の音が聞こえてきた。「あかんよ。お酒は20歳になるまで飲んだら」。子供もすかさず「なんで」と質問して、「法律で決まってるからや」と母親が答えていた。

食事を終わっての帰り道、横断歩道で赤信号を待っていた時、この親子の会話が聞こえてきて「さあ、渡ろ」と渡り始めると、子供は「赤信号は止まれやで。法律を守らな。母親はこれにんて、なんと、ええねん、ええねん。大人が一緒の時。でも子供だけの時はあかん。危ないから立場だから尚更です。」

ガリガリ

日産センターリ証券
専務 貫 雄彦



昨年末に「社内のコミュニケーションの活性化を図る」という極めて曖昧な大義名分の下、世界中のアルコールを全て体内に収めるべく奮闘した結果、血圧が上場来高値を更新。さすがに危機感を募らせ、医者に診てもらったところ、減量が血圧降下の一歩近道とのこと、一大決心しダイエットを始めた。

意志の弱さでは誰にも負けぬ私、空腹のあまり道端に落ちてしまうものでも食べてしまうのではないかと、他人の昼食に手を出してしまうのではないかと云々。周囲の人間も日頃の暴飲暴食振りを目の当たりにしているためか、何だか冷やかな視線。

鎧橋随想

(順不同)

企業スキャンダルと法規制

日本ユニコム
監査役 井上 純之助



企業スキャンダルが相変わらず内外で報じられている。近年の重大物はやはり米国のエンロン事件であろう。一時は新しいビジネスモデルと賞賛されたエンロンが、詐欺的な粉飾決算によりもろくも崩壊した。これに危機感を募らせた米議会は、素早く(且つ拙速的に)対応し、かかる事件の再発防止をしようとする「サーベインズ・オクスリー法(SOX法)」を制定した。このSOX法は法的規制がはずれ日本にも導入される。

日本では、新「会社法」が今年5月から施行され、大会社には内部統制システムの構築が義務付けられた。企業は自主性を尊重しようという世界的な流れのなかで、一方では規制を厳しくする動きは止まらない。企業の立場からみると、規制が厳格化されると、これに対応するためのコストがかかる。例えば米国に上場する日本企業はSOX法への対応コストとして10億5000万円かかるとみている。不正の未然防止は当然必要であるが、巨額のコストがかかる、企業経営が直に直面する。上記の内部統制システム構築にも多くのコストがかかる。規制とコストアップのスパイラルは止まらない。

同窓会

ローズ・コモディティ
顧客管理部長 小野 幸一



大分の国東半島で育ち、大阪の大学でワンダー・フォーゲルを学び、昭和50年、貿易会社と勘違いして、この業界にお世話になり早30年が経ちました。そんな中、今年の2月にワンダー・フォーゲル部の同期生に声を掛け、一泊で同窓会を催しました。何よりうれしかったのが、同期10人中9人が全国から駆けつけてくれたことでした。皆元気で、酒を酌み交わし談笑していると、学生時代にタイムスリップしたみたいで楽しかった。外見は多少変わっても、話し声、話し方は年月を感じさせない。今年、定年を迎える還暦ぐら

いにまた会いたい気がします。故郷に残した両親も今年喜寿を迎え、以前に比べ体がかなり弱ってきているので、最近では年に2度ほど里帰りし、簡単な農作業の手伝いをしています。故郷も市町村合併で、3月に4町が合併しましたが、人口わずか3万4千人です。私が卒業した中学も、生徒数が40年で6分の1に、高校も3校統合の予定だそうなんです。今度は中学の同窓生に会いたい気がして、地元にいる友人に幹事をお願いしようとして、里帰りのフェリーから西の海に沈む夕日を眺めながら考えていました。

交遊抄

アサヒトラスト
監査役 杉本 威



学生時代からの付き合いで40年来の友が年に数回集い、旧交を暖めている。一年先輩と後輩を含め、今では15名程である。そのうちの一人が昨秋、半年間の闘病の末、逝った。享年62歳。品行方正、律儀一途、極め付きの真面目人間であった。その彼が、我々数人で見舞った時の帰り際、ポツリと「僕は一度くらい悪いことをやらかしたんだが、もうそれも出来ない。君等には一つや二つ是非やってもいいよ……。」

我々は、その真意も聞かず、「ナニ、俺達はお前と違って、小人閑居して不善をなす、の類だから任せておけ」などと返した。その夜は、お開きとした。

見 大阪歴史博物館

勧誘の行為規制が強まると、社会との接点として重要なのが第三者による自主的な商品先物取引の紹介や啓蒙だが、業界外からの発信となると意外に少ない。

大阪歴史博物館は江戸東京博物館とならぶ充実した内容と規模を誇るが、世界で最初に組織だった先物取引所(堂島米会所)を誕生させた大阪だけに、展示や解説が充実している。

米立会風景をジオラマで 正米取引と帳合米取引

の台所と言いつて全国の各藩から年貢米が集まってくる。堂島や中之島辺りに蔵屋敷が建ち並び、蔵屋敷が発行する米切手を仲買人同士で売り買いするのが米市なんです。また架空の取引もあって、二種類の取引



堂島米市のジオラマ

商品の相場場で資産運用しようとする投資家をどうどうと登場させている公共展示場は少ない。子供たちの見学も多いらしく、小中学校の複数の教諭が執筆した小学生と中学生むけの手引き書が備え付けられている。帰りにロビーで購入したが、中学生版には「仲買人たちは架空の帳簿上での取引を行なって、相場の変動による危険を回避していた」とヘッジについても記載されているだけに、業界人にとっても一見の価値はある。

【開館時間】午前9時30分～午後5時、火曜日休館、【入場料】大人600円、中学生以下は無料。

事務局だより

当先物協会ニュースの1面上左にある「FUTURES PLAZA」欄では業界の次代を担う若手の忌憚のない意見を、自薦、推薦を問わず募集しています。業界の将来展望、求められる業界像等、日ごろ仕事を通じてお考えの事を披露いただいています。ご応募をお待ちしています。また、4面の下方の「拝見コーナー」では会員や業界関係の方々のユニークな趣味、思い出の一品・珍品、わが社における社外活動などを紹介しています。ご一報いただければ、担当の者が取材にお伺いいたします。どちらも詳細につきましては、事務局までお問い合わせ下さい。